

青木ヶ原ふれあい声かけ事業

(実施期間) 平成 23 年度～ (基金事業メニュー) 強化モデル事業

(実施経費) 平成 26 年度 16,656 千円 (実施主体) 山梨県
(16,656 千円)

【事業の背景・必要性】

山梨県における自殺死亡率は、人口動態統計（住所地ベース）で平成 16 年以降全国平均を上回るとともに、自殺統計（発見地ベース）では 19 年以降 8 年連続全国ワースト 1 位となっており、自殺対策は本県の喫緊の課題である。本県での自殺者を減少させるためには、県民に対する自殺対策とともに、県外からの自殺者を減少させる対策が必要であり、特に、県外からの自殺者が多い青木ヶ原樹海が自殺ハイリスク地域となっているため、対策が重要である。

そこで、県外からの自殺者に対する水際対策として、青木ヶ原樹海周辺地域に監視員を配置し、自殺企図者の発見、声かけと保護を行う。このほか、富士北麓地域の関係機関及び団体が協働し、地域ぐるみで自殺対策を講じる体制づくりを行うとともに、青木ヶ原樹海周辺地域において自殺企図者の発見や声かけ活動の輪を広げるため、新たなボランティアを養成するための講座を開催するなど、三位一体の事業を行い、自殺者の減少を目指している。

【地域の特徴・自殺者数の動向】

山梨県の自殺者の状況						
年	自殺統計(警察庁:発見地ベース)			人口動態統計(厚労省:住所地ベース)		
	自殺者数	自殺死亡率	順位	自殺者数	自殺死亡率	順位
平成 26 年	257	30.3	1	183	22.0	6
平成 25 年	260	30.7	1	196	23.4	7
平成 24 年	280	32.9	1	185	22.0	17
平成 23 年	312	36.4	1	212	25.1	12
平成 22 年	359	41.6	1	233	27.4	5
平成 21 年	363	41.9	1	222	26.0	17
平成 20 年	358	41.1	1	218	25.4	21
平成 19 年	342	39.0	1	225	26.1	19

【事業目標 事業内容】

(1) 目標

青木ヶ原樹海における自殺防止を図るための水際対策として、主に周辺地域を自動車で巡回し、自殺企図者への声かけと保護を行い、自殺者の減少を目指す。

(2) 内容

道の駅なるさわ、県道 71 号線沿いの見晴台、鳴沢氷穴、富岳風穴、竜宮洞穴、西湖コウモリ穴、西湖いやしの里根場、西湖野鳥の森公園を巡回するルートにおいて、青木ヶ原樹海を訪れる者を注意しながら見て、自殺企図の疑いがある者を発見した場合には、声かけを行う。声かけを行った結果、自

6 社会的な取組で自殺を防ぐ⑦

殺企図者だと思われる場合には、一時的に保護するとともに、必要に応じて富士吉田警察署に通報し引き渡す。

【事業実施にあたっての運営体制】

県の補助事業として、富士河口湖町及び鳴沢村が主体となって実施する。両自治体がそれぞれ監視員3名を雇用するとともに、自動車1台を賃借し、毎日8時間、2名1組の2チームで青木ヶ原樹海の周辺地域を巡回する。

【事業の工夫点、事業成果及び評価、今後の課題、その他特筆すべき点】

県内の自殺者は減少しており、一定の効果は出ている（平成21年：363名→24年：280名→26年：257名 発見地ベース）。

青木ヶ原ふれあい声かけ事業の平成26年度の実績は以下のとおりであった。

声かけが131名（うち保護：52名）、通報が62名（不審な様子であったが声をかけられない場合の、警察への通報を含む）で、例年4月—7月、9月—1月の期間に増加傾向にある。年齢構成では、男性では20代～30代、女性では20代が多い傾向にある。

また、バス会社の協力により、活動を熟知する専任の運転手をその路線に配置するなどし、乗客の中に自殺企図が疑われる者がいた場合には、声かけ監視員に連絡するなど、あうんの呼吸で適切な対応が図られた。

一方で、青木ヶ原ふれあい声かけ事業の活動内容がマスコミに取り上げられることが、かえって「自殺の名所」としてPRすることにつながる懸念がある。そのため、今後の課題としては、青木ヶ原樹海のイメージアップを図る活動や広報活動を併せて行うことが必要である。

（問合せ先）山梨県 福祉保健部障害福祉課 心の健康担当

TEL：055-223-1495

E-mail：shogai-fks@pref.yamanashi.lg.jp